

本会創立 150 周年にあたり 「初期の恵みを忘れないように」

愛する姉妹の皆さま

サレジオ家族と私たちにとって、特に重要で意義深い祝祭日が豊かなこの月を、皆さまとご一緒できることをうれしく思います。聖フランシスコ・サレジオの姿を中心にした第40回サレジオ家族の霊性の日が終了したばかりです。トリノの扶助者聖マリア大聖堂で行われた聖体祭儀のオメリアで、アンヘル・フェルナンデス・アルティメ総長は福音の説明をしながら、それぞれの共同体は、マリアとその息子の間に起きたことを記念するガリラヤのカナであることを強調されました。ナザレで、マリアは出来事を待っています、カナでは、息子に介入し、息子がその仕事を完成するのを待っておられます。

マリアのように、私たちも神に決定していただくことを学びましょう。聖フランシスコ・サレジオは、この信頼に満ちた信仰の素晴らしい模範です。それは、「どのような答えであっても私にとって恵みです。」という断言によってよく表されているように、神と神の優しさに対する信頼がその姿勢となっているからです。

ストレンナは、本会創立 150 周年に向けた歩みと調和しながら、サレジオ霊性の原点である基本的側面を深める機会を、摂理的に提供しています。

「大らかな心で歩き続けましょう。」(手紙 47,12)

ここで、皆さまからのご質問にも動かされ、創立 150 周年記念式典に向けて、総評議員の姉妹方と一緒に考えていることをお伝えしたいと思います。私たちがたどっている道を思い起こすために、マードレ・イヴォンヌと総評議会が、この素晴らしいイベントの祝典に向けて 3 年間の準備期間を生きる皆さまをお招きしたチルコラーレ第 989 号を思い起こしたいと思います。

提案には 3 つの段階がありました。

2019-2020 年 感謝すること。「わたしたちにこんなにたくさんのお恵みをくださる主に本当に感謝しましょう。」(手紙 37,10).

2020-2021 年 わたしたちへ委託を受けとめること。「あなたにこの少女たちを委ねます。」

2021-2022 年 大胆に未来を描くこと。「喜びをもって! 大らかな心で歩き続けましょう。」(手紙 47,12).

この意図は、若い女性としてのマリア・ドメニカ・マザレロのアイデンティティと、その霊性と使命の預言的側面を再発見するために、教育共同体、特に青少年を巻き込むこと

ですが、これは現在も変わりません。マードレと初期の共同体、そして青少年と一般信徒協力者が、モルネーゼとニツァ・モンフェラートで、ドン・ボスコのカリスマの生命力を、女性として創造的かつ独創的な方法で生きたことを共に記念する助けとなるでしょう。

けれども、2019年8月5日、3年間の提案が発表された時、数か月後にCovid-19のパンデミックが発生し、すべての人類の生活を覆し、混乱させ、世界レベルで、社会、仕事、学校、私生活、そしてあらゆる面での人間関係を再編成し、再考する必要性が引き起こされることなどは誰にも想像のつかないことでした。

今も収束することなくその影響を与え続ける状況において、未来を大胆に計画するため、現代社会の挑戦を受け入れること、また、この時勢の中で、召命と宣教を刷新し、再度活性化するチャンスとして150周年記念行事を生きるよう求められています。

私たちの力は、私たちの歴史と日常生活、すなわち、私たちが世界と教会の中で先行する愛のしるしであり、いのちの「助け手」、喜びと希望の守り手であるつとめの中に、扶助者聖マリアが存在しておられるという確信にあります。また、「勇気を出して。大らかな心で歩き続けましょう。」（手紙47,12）というマードレ・マザレロのことばが私たちの力です。

2021年10月22日の訪問で教皇フランシスコは、総会議員におっしゃいました。「起源の恵み、神の働きを生き方の中で目に見えるようにした初期の慎ましさと小ささ、そして驚嘆に満ちたこの歩みを始めた人々のメッセージを忘れないでください。」と。教皇様の招きは、来る8月5日に向けて準備するこの数ヶ月を、特別な恵みの時として生きるようにとの呼びかけです。

マードレ・マザレロは単純で深い意味を込めて、「今、炎を再びかきたてるには良いときなのです」（手紙27,8）と語りかけてくださることでしょう。

主のものとしての炎、サレジオの生活に招かれた炎、青少年と貧しい人への奉仕において、いのちを生み出す共同体とするカリスマ的情熱の炎は、私たちの会が全世界に広がることを可能にすると初期のFMAにドン・ボスコが言えるようにしたのです。「あなた方は少人数であり、この生活のための手段にも不足しています。そのことで心を騒がせてはなりません。物事は早く進展していき、やがてあなた方はどこにいてもらえばよいのかわからないほど多くの生徒を有することでしょう。また、生徒ばかりでなく、選ぶのに困るほどたくさんのポストランテも有するようになるでしょう。もし皆さんが、単純で貧しく、節制の人であり続けるなら、本会にはすばらしい将来が約束されていると、わたしは保証することができます」（クロニストリア1305-306）。

預言は、まだ私たちに対するものです。ドン・ボスコの言葉にもあるように、神の摂理への信仰と信頼によって活気づけられる必要があります。

この第24回総会は、単純な日常生活の中で、また、世界のFMA共同体が生きている困難の最中で、私たちの召命の喜びと忠誠を活気づけながら、希望をもって未来へと私たちを開いてくれます。私たちは神のみ手の中にあり、神のご計画の中にあり、若者たちが教会と社会に特有な貢献をするために、自分の使命を発見するよう導くために呼ばれているという確信を持っています。

「もし皆さんが、単純で貧しく、節制の人であり続けるなら、本会にはすばらしい将来が約束されている。」

創立 50 周年と 100 周年に、大勢の人々がモルネーゼ、ニッツァ・モンフェッラート、トリノの聖地に喜んで集い、私たちの姉妹は、盛大で厳粛な祝宴を開くことができました。今、世界情勢はそれを許してくれません。けれども、それはこの 150 年間に受けた非常に多くの恵みの賜物に感謝を込めて人々を巻き込むには、それに劣らない効果的な方法が私たちにはあるのです。奉獻された女性、教育者、夢見る人の娘である私たちは、今起きている時代社会の変化を理解し、教育共同体とともにその立役者となる重要な任務を負っています。

まさに今日、この困難で複雑で不安定な時だからこそ、私たちは、いのちの本質と尊さを痛感させられると同時に、これまで以上に、「みことばとパン」であるイエスに基づく、喜びに満ちた果敢な勇気を求められているのです。

いろいろな管区から届く第 24 回総会の経験の分かち合いについての肯定的な反響は、ドン・ボスコとマードレ・マザレロが実践し、サレジオのカリスマを通して私たちが引き継いでいる「presenza の預言」に再適応するため、種々の状況の中で重点的な項目を選択するよう促しています。Presenza とは、本会にとって、歴史的なこの瞬間にける堅実な継続養成、宣教的シノダリティ、また、総合的エコロジーという観点から、貧しい人々と地球の叫びに耳を傾けることなのです。

大切なことは、8 月 5 日に向けて私たちを導く個人的、共同体的回心の歩みの基本的な段階とし、未来を見据え、更にそれを超えて行くため、第 24 回総会の議事録が私たちに提供する内容や指示を日々の実践の中で内面化し、生きていくことです。それは、私たちの顔と家を美しさと新鮮さで輝かせ、率直に心を込めて協働する兄弟愛を中心として、私たちの使命を純粋さと共感で彩り、いのちを生み出し、再生する、ますます魅力的な神の愛のしるしとするのです。マードレ・マザレロが当時の姉妹たちと、そして現代の私たちを、本質的、福音的な輝き、愛の純粋さへと招く声に再び耳を傾け、それを受け止めるようにしましょう。

私たち一人ひとりの中にある固有な恵みを曇らせ、覆い隠してしまうものを取り除き、炎を明るく照らすように灰を振り落とし、愛徳のうちに自由であるため、心を窒息させるものを心の「庭」から取り除くこと、「世界」のためのスペースを確保するために、俗っぽいおもりを投げ出すこと、自分自身と他者の救いに必要でないものを脱ぎ去り、キリストの霊を真に身にまとうことを「本当に堅い意志をもって」再び動き始めるようにとのマードレ・マザレロの招きと励ましを、皆、心に抱いています。

この本質こそが、「今日」という日に、私たちを預言の Presenza であるよう導いてくれます。

サレジオの靈性を深め、すでに始まっている未来を照らす現在の根源である過去を読み直すために、共同体的出会い、ボナノッテ、毎月の静修、コックィオを通常の養成の時として、より意識し、大切にしようお勧めします。本会のウェブサイトや Centro Studi delle FMA には、皆さまが共同体で参考にし、活用できるカリスマ的な豊かな資料が数多くあります。

私は、すべての管区と共同体に、2022 年 8 月 5 日、あるいは、その国の暦に基づいて適切な時に、神との愛の契約への忠実さである「はい」を更新し、会全体の交わりのしるしとして、また若者と教育共同体への証として、特別な祝祭を行うようお勧めします。

それは、いのちを豊かにするよう若者に呼びかけるイエスの魅力への感性を目覚めさせ、更に他の若者にも広がっていく新たな恵みと喜びのほとばしりとなるでしょう。（『キリストは生きている』248 - 277 参照）

教皇庁教育科学部「Auxilium」が主催し、総評議会が推進する国際会議が、「教育へのFMAの貢献（1872-2022）行程、課題、展望」をテーマに、ローマで（2022年9月25-30日）開催されます。準備のため、管区レベルでご協力いただいたことに感謝します。

それは、私たち皆にとって、5大陸の多くの青少年の意味と希望についての探求へ答えるものとして、ドン・ボスコとマリア・ドメニカ・マザレロの教育的カリスマは現代に通用するという認識と喜びを再生する重要な機会となることでしょう。

創立150周年という記念すべき年に、教育共同体や各管区で皆さまが、取り組みや祝賀会、会議などで、すでに多くの創造性を発揮していらっしゃることを知り、嬉しく思っております。

わたしは、各地域において可能な範囲内で、若者と共にいる、話を聞く、分かち合う、祈るための機会を大切にしながら、あるいは、場合によってはマードレ・マザレロを知らせるより良い機会を見つけながら、若者と共に生活する共同体の体験を是非実現されますようお勧めします。

本会が、彼らの「家」であり、私たちが普遍的な兄弟愛の世界を築き、総合的エコロジーの回心の歩みを共にすることができることを若者が感じるように、私たちが生活しているあらゆる環境で、若者を迎え入れる力を強化することは、会の現在と未来にとって重要で、不可欠なことです。

会全体レベルでイベントを開催することは、オンライン以外にありません。ですから、それぞれの現実に合わせ、喜びのうちに盛大に本会創立150周年を祝っていただきたいと思えます。

そのためには、適切で可能な方法によって、共同体または管区のレベルで、できるだけ若者を巻き込みながら、ユース・フェスティバルを企画し、彼らが今日のカリスマに若者の顔を描き出す主役になれると感ずることができるよう、皆さまにお勧めします。

責任をもって関わって下さる皆さまと教育共同体の方々に感謝します。そして、愛と宣教的な創造性があなたに想像させ、活動させるさまざまなイニシアチブの資料を総秘書と会のウェブサイトを送ってくださるようお願いいたします。

奇跡的に実現できた第24回総会の開催は、私たちが最も気にかけていること、つまり、私たちの会におけるマリアの特別な現存とその力強い助けを表しています。

ヨハネによる福音書2章1節の「イエスの母マリアがそこにいた」こと、そして、これにこだまする会憲の「マリアは、私たちの生涯と本会の歴史の中に、生き生きと現存する」（会憲44参照）という真理を、私たち全員は疑いなくはっきりと体験することができました。

私たちは、聖母が私たちに同伴し、先行し、導いてくださっていることを感じております。私たちは完全にマリアのものである修道会です。マードレ・マザレロはおっしゃることでしょう。「勇気をだして」、「大胆さと祈り」ですと。

私たちは、自由で開かれた心で霊の促しを受け止め、注意深い眼差しをもって絶え間ない苦しみの変化の中にある世界の必要と緊急性を見分け、思いやりと優しさをもって社会の最も危険にさらされデリケートな部分であり、私たちにとって常に大切な存在である若者と共に、聖霊が私たちに示してくださる道を、情熱をもって前進していきましょう。

ドン・ボスコの祝日、おめでとうございます。皆さまお一人ひとりと教育共同体の皆様
に喜びのご挨拶を申し上げます。

主が私たちを恵みで満たし、先を見越す眼差しと新たな勇気を与え、祝福して
くださいますように。

心をこめて皆さまご挨拶申し上げます。

ローマ 2022年1月24日

皆様を愛するマードレ
Sr. Chiara Cazzuola